

咽頭結膜熱の流行について（注意喚起）

県では、咽頭結膜熱の流行について令和5年第40週に県下全域を対象とした警報を発表し、その後も複数の保健所管内で高い水準の報告が続いていたことなどを踏まえ、発生動向を注視してきました。しかし、令和6年第51週において、仙南保健所管内における1定点医療機関当たりの患者数が5.25人となるなど、患者報告数の増加が確認されています。

昨年の傾向を見ると、10月頃から3月頃までの期間に感染者数が特に増加していることから、今後、同様に増加することが予測されます。感染拡大を防止するため、発熱や喉の痛み等の症状のある場合は、咳エチケットや手洗いなどの基本的感染対策の徹底をお願いします。

～咽頭結膜熱（プール熱）とは～

アデノウイルスが原因の感染症で、主な症状は発熱、喉の痛み、結膜炎等で、3～5日程度続きます。小児（特に5歳以下）の発生が多く、特に生後14日以内の新生児が感染した場合は、重症化することがありますので、早めの受診が大切です。潜伏期間は5～7日です。感染経路は、咳やくしゃみによって感染する飛沫感染、ウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる接触感染があります。

通常夏期に地域全体で流行し、6月頃から徐々に増加しはじめ、7～8月にピークを形成しますが、近年冬季にも流行が見られています。

咽頭結膜熱には、特別な治療法はなく、基本的には対症療法（症状を和らげる治療）を行います。

～咽頭結膜熱（プール熱）の予防～

- 1 症状がある時や人混みでは、マスクを正しく着用するなど「咳エチケット」を心がけましょう。
- 2 食事の前や排泄後、おむつ交換の後などは、石けんと流水による十分な手洗いを徹底しましょう。
- 3 家族や身近な方が感染した場合は、タオルなどの共用を避けましょう。

○各保健所管内における1定点医療機関当たりの咽頭結膜熱患者報告数（人）

	第45週	第46週	第47週	第48週	第49週	第50週	第51週
仙南	1.75	1.25	0.75	1.50	0.75	2.25	5.25
塩釜	1.50	1.40	1.20	0.70	0.80	0.60	1.50
大崎	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.50	0.00
石巻	0.67	0.33	0.00	0.50	0.00	0.67	0.83
気仙沼	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
仙台市	0.19	0.26	0.67	0.44	0.74	0.70	1.19
宮城県（全体）	0.56	0.51	0.60	0.51	0.56	0.75	1.33

※ ：警報開始基準値（3）を超える値

宮城県内における1 定点医療機関当たりの咽頭結膜熱患者報告数

